学校だより
NO　13
R7 1/10

敬　愛（けいあい）

学校教育目標
一人一人の個性を伸ばし，自ら学ぶ生徒の育成を図る

甲斐市立敷島中学校
編集　校長　山本成利

最幸のゴール，最高のスタートに向けて～この仲間と最後まで一緒に前進する～

白い息を吐きながら急坂の参道を登る。行き交う人たちの表情はすがすがしく，希望に満ちている。“新年の顔”に出会うと元気のお裾分けをしてもらうようで，こちらも自然と笑顔になる。元旦，甲府市の金桜神社へ初詣に行った。参拝客の行列に並び，鈴を盛大に鳴らして手を合わせる。「よい１年になりますように」ただそれだけを願う。今年の干支（えと）はヘビ。見た目の少し怖いイメージとは裏腹に，神聖で縁起のよい生き物として古来，信仰の対象とされてきた。「脱皮するヘビは復活の象徴。昨年の能登半島地震から１年，その後の豪雨災害などでまだまだ苦しんでいる人たちがいる。今年は復活と再生の年に・・・」。みんな同じ思いだろう。新たな決意で再生の年を始めたい。今年の年始めは天候も穏やかで，静かにはじまった。しかし，韓国での航空機墜落事故や中国の地震など，災害や事故により命を失った方々もいる。当たり前のことが当たり前ではないこと，当たり前の日常生活が送れることへの感謝の気持ちをもつこと，そして，「命の大切さ」を改めて考え直し，素晴らしい年としたいと思います。インフルエンザなどの感染症にも注意をしながら頑張っていきましょう。今年もよろしくお願いいたします。

＜３学期始業式　式辞＞

３年生にとっては，今からが本当の正念場です。３学期のスタート，到達度検査，進路決定の三者懇談，私学入試，公立高校前期入試，学年末テスト，公立高校後期入試・・・と続きあっという間に日々が過ぎていきます。

ひとつの「仕事」を終えた後は，気持ちを切り替える時間が必要です。「ボー」とする時間も，次のエネルギーを蓄える時間と考えれば価値のある時間と言えます。しかし，この時期の３年生にはそうした時間がありません。私が過去に３年生の学年を担当してきたことを振り返ってみても，息つく暇もなく毎日を過ごしていました。

しかし，入試に向けての勉強を「自分一人で戦っている」と思わないことです。君たちの知らないところ，気づかないところで，家族も先生方も戦っているのです。家族はみなさんの健康を考えての食事の献立を考えたり，みなさんが勉強に集中できるようにテレビのボリュームを絞ったり，ゆっくりと休養がとれる雰囲気づくりに心がけたり・・・と配慮しています。先生方も君たちと運命共同体という強い思いで粉骨砕身頑張っています。そして，何よりともに前進しようとする仲間もいます。こうしたことを心の支えに頑張るしかありません。

「入試」というと「苦しい」「辛い」「厳しい」というイメージが先行します。不安と焦りに襲われます。しかし，その先には「明るい未来」「希望ある生活」「新しい出会い」が待ち構えています。入試だけを考えるのではなく，その後，希望する進路を実現した自分をイメージしてみると気持ちに余裕が生まれてくるはずです。最幸のゴール（＝卒業式），最高のスタート（＝4月からの新しい生活）を目指して頑張りましょう。

１，２年生も，この３学期の３年生の姿から１年後，２年後の自分の姿をイメージしてみてください。３年生は，まさに進路を切り拓く「本番力」を発揮する時を迎えました。勝負がかかればかかるほど，今までの蓄積が問われます。最初は，たった一歩の差でも，３年の積み重ねにすれば大きな差になります。「あっという間の３年間・・・」とは，今の３年生が実感していることです。

君たちには，この敷中の伝統の下で「挨拶」や「日本一の下駄箱」の向上に取り組み，毎日の授業や清掃活動や合唱活動，部活動等で自己を磨き，３年生を中心に創ってくれた「生徒心得」を自分たちでしっかりと守り，節度ある生活を心がけていってほしいと思います。それこそが進路実現のための本番力につながり，未来の夢を叶えるステップになります。敷中のよき伝統をしっかりと守り，発展させ，ぶれないようにしましょう。

私たちは平穏な日常を当たり前と思いがちですが、日々元気に暮らせることが、どれほどありがたいかを改めて実感します。改めて思うのは、人の痛みや苦しみに関心を寄せ、共感することは、人生を切り開く大きな力になるということです。ですから君たちには、社会に広く目を向け、起きている出来事に敏感になり、命の尊さを感じてほしいと願います。

そして、学校生活の中で自分や周りの人を大切にする意識も大切です。本校に限らず、最近ではＳＮＳも含めて心無い言葉で他人を傷つけるなど、不用意な発言がトラブルに繋がることも少なくありません。もしそのような場面に出会ったら、周りの力で抑えることも大切なのでしょう。仲間を大切にする、そうした風潮・文化をつくることを、みなさんで心掛けてほしいのです。一人ひとりが命の重みを心に刻み、行動することで、優しさに溢れた学校や社会を築けると信じています。

本年度の締めくくりでもある３学期は，様々な意味で勝負の時です。全員で敷中を，そして自分自身をさらに向上させていきましょう。そして，最幸のゴール，最高のスタートを目指して努力を続けていきましょう。

＜生徒代表から＞

☆昨年は中学校に入学し，新しい出会いに満ちた１年となりました。わからないことだらけでしたが，先輩たちの背中を見て学びながら，仲間と共に一致入魂し，何事にも全力で挑戦できたことは大きな誇りです。新たな年を迎え，私たちはもうすぐ「先輩」と呼ばれる立場になります。私たちの「背中」が後輩たちの憧れとなるよう，私たちもさらに成長していく必要があります。今の先輩たちのように，優しさと笑顔で後輩たちをリードし，憧れの存在となっていきたいです。（１年３組　米山祥平さん）

☆「２年生は差のつく学年」１学期のはじまりと２学期の終わりに同じ言葉を聞きましたが，重みがまったく違いました。この３学期は僕たちにとって大きく差がつく学期になると思います。進路実現に向けて，より一層学習に力を入れていきたいです。今から努力できるかで入試で闘えるかが決まります。部活動では「最後」にかけ，努力を続けてきた先輩方を間近で見てきました。常に味方を励まし，支えあいながら一歩一歩進む力強い想い，このような想いを引き継ぎ，一つ一つの行動に意味を持たせ，仲間と共に成長していきたいです。（２年１組　稲垣光弥さん）

☆昨年の校則の見直しのための臨時生徒総会では全校生徒から多くの意見が出されました。そのなかでも３年生は，来年度から施行されるものなので，直接的には関わりがありません。しかし，敷島中のことを考え，より多くの意見を出してくれる姿には感動しました。この姿は私たちも繋いでいかなければいけないと感じました。私は先輩方が創りあげてきたこの伝統ある敷島中の生徒会長として，新たな生徒会役員の仲間と共に全校のために全力を尽くします。さらに力強く進むことのできる敷島中を創りあげていくために，今後もご協力をお願いします。（２年５組　神澤景吾さん）

☆今は悩んだり辛いと思うことがありますが，入試本番まで残り数ヶ月です。自分自身と向き合い勉強に集中できる期間を大切にし，この大きな壁を乗り越え，最後まで努力を続けられる強い人間になるようにしたいです。私たち赤学年は，行事だけでなく，挨拶，靴を揃えるなどのところから「凡事徹底」を意識して，これまでやってきました。私たちが大切にしてきたことを最後までぶれることなくやり切り，後輩によい伝統を残せるように頑張りたいと思います。そして，最後の卒業式では，敷島中学校でよかった，３年４組でよかったと思えるように会長としてみんなを引っ張っていきたいと思います。（３年４組　高野春馬さん）

幸運の女神は準備を終えた者のところにしか訪れない

上記の言葉は，のちの世界的な大科学者として知られることになる，フランスのルイ・パスツールが，３０歳代前半のころに講義の中で，学生に贈った言葉だと言われています。ルイ・パスツールは，ワクチンの予防接種という概念を考え出したフランスの生化学者・細菌学者。ロベルト・コッホとともに「近代細菌学の開祖」と称される人物であり，弱毒化した微生物を接種することで免疫を得ることができるということを発見。「ワクチンの予防接種」という感染症に対する予防法を開発した他，牛乳などの液体を60℃程度で数十分間加熱し，バクテリアやカビなどの微生物を殺菌する「低温殺菌法」なども開発しました。

「私が目標を達成できた秘訣（ひけつ）を教えよう。それは，あきらめないことだ」

これもパスツールの言葉です。高校入試に挑戦する敷中３年生も心に刻みたい言葉ですね。目標達成に向けて最後まであきらめることなく，今できる最善の準備を心がけましょう。